

横田基地日米友好祭開催に関する要望書

私たち横田基地周辺に生活する者が、日々、横田基地を離着陸する航空機や訓練飛行を行う航空機等により身体的及び生活被害を受けていることは、ご存じのことと思います。

しかし、米軍横田基地で行われる日米友好祭においては、過去に、日米合同委員会で禁止されていた曲技飛行を自衛隊機が行い、それが発覚すると米軍機が展示飛行と称して曲技飛行まがいの飛行をする、強風で中止せざるを得なかったパラシュート降下訓練を見せる、航空機乗員のヘルメット落下事故を起こすなど、相変わらず、見せ物としての行為を重視し、周辺住民の安全を無視したショーが行われています。

これらの経緯をふまえ、私たち横田・基地被害をなくす会は、本年8月20日・21日に開催される「横田基地日米友好祭」について、横田基地周辺住民の立場から以下の通り要望いたします。つきましては、この要望に対して、回答をされますよう要求いたします。

1. 1964年（昭和39年）日米合同委員会・合意事項違反の、曲技飛行や低空飛行、1マッハを超える飛行などの危険な飛行を行わないこと。また、「見せ物」としての飛行を行わないこと。

日米友好祭では、毎年のように、見せ物的飛行が行われている事実が明らかになっています。また、日程表では予定されていない飛行や、両翼を左右に振るなどの飛行が行われている事実も明らかになっています。

住宅密集地上空での危険飛行は、事故が起きた際に被害が大きくなることは明らかです。また、横田基地を離着陸する航空機による騒音等の被害からの救済を求めた裁判では、過去11回も「周辺住民に騒音や振動による被害を与えていることは違法」との判決が下されている経緯を踏まえても、私たちは「見せ物」としての飛行や日米友好祭開催に当たって他基地から航空機が飛来することを認めません。

日米友好祭当日横田基地を訪れる観光目的の人々にとっては興味深い「航空ショー」であっても、私たち周辺住民にとっては危険と恐怖、騒音の増大でしかありません。

2. 日本国自衛隊所属の航空機を展示しないこと。

「日米友好祭」では、毎年、横田基地に自衛隊所属の航空機が展示されます。

日々米軍の航空機騒音等に悩まされる私たち周辺住民の存在を知りながら、わが国の自衛隊機がわざわざ横田基地に飛来し、また、「友好祭」後離陸していくことで、基地周辺住民の被害を増加させています。自衛隊機の飛来は、認められるものではありません。また、自衛隊機の事故も相次いでいます。騒音の増加と共に墜落の危険すら増加することに、私たちはたまらない思いでいます。

3. 日米友好祭当日の周辺交通対策を考えること。

例年、私たち周辺住民は、日米友好祭開催日に、基地周辺道路の渋滞や路上駐車が増大によって多大な迷惑を被っています。このような事態が起きないように、しかるべき対策を行うよう要望します。

在日米軍主催の「日米友好祭」が真に「日米の友好」を目的とするものならば、まず、基地周辺住民との友好関係を築き上げることこそ重要であるとの認識を持ってほしいと私たちは思います。その認識が貴国に欠如されていることが、私たち周辺住民が何度も裁判を起さなければならないことになった原因であるともいえます。原点に立ち返って真の友好関係を築き上げる努力を行うことを求めます。

在日米軍横田基地第374空輸航空団司令官

ポール E. フェザー大佐 殿

横田・基地被害をなくす会 代表 浅野 太三

〒196-0001昭島市美堀町3-13-1 Tel&Fax 042-542-5625

2011年8月3日

横田基地日米友好祭開催に関する要望書

私たち横田基地周辺に生活する者が、日々、横田基地を離着陸する航空機や訓練飛行を行う航空機等により身体的及び生活被害を受けていることは、ご存じのことと思います。

しかし、米軍横田基地で行われる日米友好祭においては、過去に、日米合同委員会で禁止されていた曲技飛行を自衛隊機が行い、それが発覚すると米軍機が展示飛行と称して曲技飛行まがいの飛行をする、強風で中止せざるを得なかったパラシュート降下訓練を見せる、航空機乗員のヘルメット落下事故を起こすなど、相変わらず、見せ物としての行為を重視し、周辺住民の安全を無視したショーが行われています。

これらの経緯をふまえ、私たち横田・基地被害をなくす会は、本年8月20日・21日に開催される「横田基地日米友好祭」について、横田基地周辺住民の立場から以下の通り要望いたします。つきましては、この要望に対して、回答をされますよう要求いたします。

1. 1964年（昭和39年）日米合同委員会・合意事項違反の、曲技飛行や低空飛行、1マッハを超える飛行などの危険な飛行を行わせないこと。また、「見せ物」としての飛行を行わせないこと。

日米友好祭では、毎年のように、見せ物的飛行が行われている事実が明らかになっています。また、日程表では予定されていない飛行や、両翼を左右に振るなどの飛行が行われている事実も明らかになっています。

住宅密集地上空での危険飛行は、事故が起きた際に被害が大きくなることは明らかです。また、横田基地を離着陸する航空機による騒音等の被害からの救済を求めた裁判では、過去11回も「周辺住民に騒音や振動による被害を与えていることは違法」との判決が下されている経緯を踏まえても、私たちは「見せ物」としての飛行や日米友好祭開催に当たって他基地から航空機が飛来することを認めません。

日米友好祭当日横田基地を訪れる観光目的の人々にとっては興味深い「航空ショー」であっても、私たち周辺住民にとっては危険と恐怖、騒音の増大でしかありません。

2. 日本国自衛隊所属の航空機を展示しないこと。

「日米友好祭」では、毎年、横田基地に自衛隊所属の航空機が展示されます。

日々米軍の航空機騒音等に悩まされる私たち周辺住民の存在を知らながら、わが国の自衛隊機がわざわざ横田基地に飛来し、また、「友好祭」後離陸していくことで、基地周辺住民の被害を増加させています。自衛隊機の飛来は、認められるものではありません。また、自衛隊機の事故も相次いでいます。騒音の増加と共に墜落の危険すら増加することに、私たちはたまらない思いでいます。

3. 日米友好祭当日の周辺交通対策を考えること。

例年、私たち周辺住民は、日米友好祭開催日に、基地周辺道路の渋滞や路上駐車が増大によって多大な迷惑を被っています。このような事態が起きないように、しかるべき対策を行うよう要望します。

在日米軍主催の「日米友好祭」が真に「日米の友好」を目的とするものならば、まず、基地周辺住民との友好関係を築き上げることこそ重要であるとの認識を持ってほしいと私たちは思います。その認識が米国及び我が国政府に欠如されていることが、私たち周辺住民が何度も裁判を起こさなければならないことになった原因であるともいえます。原点に立ち返って真の友好関係を築き上げられる努力を行うことを求めます。

防衛大臣 北澤俊美殿
防衛省 北関東防衛局長 鈴木良之殿

横田・基地被害をなくす会 代表 浅野太三
〒196-0001東京都昭島市美堀町3-13-1 Tel&Fax 042-542-5625

2011年8月3日